



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年2月1日

2月 第217号

奈良・人と自然の会



＜記念植樹を終えて＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	ならやま投句箱	9
Monthly Repo. ならやま	2	Gallaryならやま	10
里山の今	3・4	仲間入りしました	11
新年初出/記念植樹・レポ	5	ならやまプロジェクト	12
三輪山参拝・レポ	6	行事案内 1	13
私のふるさと	7	行事案内 2	14
字遊字感	8	幹事会報告・編集後記	15



「十五夏十五冬」

会長 鈴木 末一

テレビのリモコンを調整中に「二夏二冬」という四字熟語が目につき最後まで視聴した。「八丁味噌」の特番であった。

標題の十五夏十五冬、いきなり四字熟語。何を書こうとしているの、と質問が飛んできそうです。愛知県岡崎市の岡崎城から西へちょうど八丁(約870m)の距離にある八帖町(旧八丁村)に由来する「八丁味噌」の製法と、深い関わりのある「二夏二冬」という言葉があります。

江戸時代から八丁味噌の伝統製法を守り続けている2社の老舗の大きな味噌蔵が、街道沿いに並んでいます。その蔵には、大豆を加工する工程で直接麹菌を生やし、大豆麹をつくります。米麹は一切使わないとのこと。この製麹(大豆こうじ)に塩、水を加えて、巨大樽の中に原材料を入れ、熟練の職人さんが均一になるように丁寧に踏み固め、中に空気が残っていないようにします。そして、最上部にシートを敷き詰めて、その上に石積みを行います。修行を重ねた石積み職人さんが、ただ上に乗せていくのではなく、圧力が均等に伝わるようにきれいな円錐形に積み上げていくのです。一つの桶には6トンの味噌が入り、3トンの石が積み上げられています。

途中で天地返しなど、いっさい手を加えたりはしないのです。そして、二夏二冬、すなわち2年の間じっくりと寝かせることで、昔ながらの伝統的な風味を持つ「八丁味噌」ができあがるとのことです。巨大桶にびっしりと詰められた約6トンの味噌が、どこでも同じ品質であるとは限りません。中でも桶の真ん中が、「これぞ八丁味噌」という最高の品質のものとなるようです。その鑑定は、代々伝統を受け継いできた当主である社長さんが確かめることになっています。杉材でできた巨大桶の中には、150年もの間、現役として活躍しているものもあり、木桶文化を守ろうとする動きも出てきています。「八丁味噌」は、多くの熟練職人さんたちが丹精込めて仕込んでから、約2年の

歳月を経て結果が示されるのです。

それでは里山にステージを移して、「命をつなぐ営み」に思いを巡らせてみたいと思います。カシノナガキクイムシによるナラ枯れは、2011年6月の調査開始以降、全木調査、森林技術センターとの協働による部分皆伐萌芽試験、基礎整備などを経て、2012年9月に1本のコナラにナラ枯れが発生したのが確認されました。その後は、森林技術センターの指導の下に、カシノナガキクイムシ飛来調査用トラップを34箇所を設置し、監視体制を整えたのでした。しかし、徐々に被害が広がり、2013年10月には、枯死木の伐採を開始するに至りました。

森林技術センターによれば、ようやくのこと昨年秋には、ナラ枯れ被害は収束したとのこと。枯死木の処理も峠を越えつつあります。その間、イベントなどを通して、子どもたちの手による植樹活動を積み重ねてきました。ならやま里山林の全木調査のデータによれば、1992本から現在では約半数に減少しています。半世紀以上前の頃は、15年周期、すなわち「十五夏十五冬」での若返り更新、つまり人の手が入ることによって、循環・再生する里山林の整備が、ごく当たり前のように行われていたのです。

当会にとって今やメインの活動として定着している「ならやまプロジェクト」において、循環・再生する里山林の整備が、最も重要な事項であります。中長期の展望を確立させ、マンパワーを掛けた計画的な取り組みが喫緊の課題といえます。

「里山研修会」を開催し、活動の方向性を確立させたいと考えています。

里山再生のキーワードは「つなぐ」。「命をつなぐ(生物多様性)、人をつなぐ、都市と農山村をつなぐ」、つまり「つながり」の中に自分がいることを、一人ひとり知っていくことが大切であると思います。

民俗学者の宮本常一は、「自然は寂しい、しかしそこに人の手が加わると暖くなるんだ」と言っています。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

1月9日(木) 活動 晴れ 90名

初出式と10年継続会員記念植樹式、令和天皇即位記念植樹式が行われる。朝早くから臼やきねを借りるやら窯に火をおこすやらでサイトは大忙し。加えて七草粥の準備も大変だ。餅つきは10時30



分にスタート。今年はきな粉餅や大根おろし餅、そして終礼時に配られた焼餅と全部で6臼の餅とならやまで採れた七草を使った七草粥の食事が準備される。餅をつくメンバーも昔取ったきねづかとは言えず、やはり寄る年を感じた時間となったのではないかな。また午後は10年継続会員記念植樹式と令和天皇即位記念植樹式が続いて行われる。今年の継続会員対象者は11名だったが、都合で3名が欠席。しかし富有柿とタイサンボクの根に土を被せながらこれらの樹木と会の成長を願う良い機会となった。里山Gはシイタケ用櫓木伐採とテ



ント屋根修復、エコGはビニールハウス修復、そして景観Gミーティングを行う。またビオ班はタナゴ池整備、花班は七草採集、そしてパトGは2コースパトロールと観察路の点検に出る。



1月16日(木) 活動 晴れ 77名+2名

本年2回目の活動日になり、各Gとも春に向けての準備にエンジンがかかる。特に備品の把握のために協働活動で備品調査、一覧表づくりが行われ、各テントとも整理が進む。今後はこの一覧表を基に備品の整備・把握が進むことになる。打ち合わせではこの件の他、新春講演会への参加依頼や図録編集についての連絡等が主なものになる。シニア生2名。里山Gは櫓木作成と薪棚屋根の修復、エコGは水田水路整備とチップ入れ、そして景観Gは自転車道の待機場所整備を行う。またビオ班は池周辺の景観整備、花班は花壇の草取りや寒肥施肥、パトGは3コースパトロールと観察路倒木の処理に取り組む。その他果樹班は鹿よけフェンスの設置に汗を流す。

里山グループ

里山の今

エコファームグループ

◆ツツジが狂い咲き？

山本 隆造

◆ならやまへの愛着にじむネーミング

吉川 利文

昨年夏の北アルプスは天候に恵まれ、山頂から絶景が見られました。とりわけ北穂高山頂からの、夕焼けと槍ヶ岳のシルエットは絵になる光景でした。夜は満天の星空。

3000mからの眺めは圧巻でした。こんなにたくさんの星があったかなあ～。



冬の里山は日差しが地面まで届き、温かみを感じられます。昨年秋から例年になくモチツツジの狂い咲き？があちこちで見られました。年が明けても冬



枯れの中で咲いているのは驚きです。狂い咲きについて、サクラでは「成長抑制ホルモン」を持たない

花芽が、晩秋の異常な暖かさで開花するといわれています。通常、葉で作られる「成長抑制ホルモン」が花芽に移動し、これを持った花芽は一度冬の寒さを感じるまでは、晩秋の暖かさでは開花しない。一方、

「成長抑制ホルモン」が花芽に届く前に台風や虫害により落葉してしまい、これを持たない花芽が晩秋の異常な暖かさを春と間違え開花するというメカニズムだそうです。ツツジでも同じことがいえるのでしょうか？低木のツツジが台風の影響が大きいとは思えないし、特別虫が多かった様子もありますが…。夏の猛暑や残暑そして異常な暖冬など温暖化のせいでしょうか？

この時期里山グループでは、恒例のシイタケ菌打ちイベントに向け、植菌用の原木作りです。昨年 11 月に伐倒し、「葉枯らし」といって木の水分量を調節するため、枝葉を付けたまま放置していたコナラを玉切りし、櫓木用の原木とします。今年も 250 本ほどの原木を準備します。

ならやまの会には、素敵なネーミングが多い。入会してすぐに感銘を受けたのは「ビオトープ」。調べてみると、これはドイツ語。しかも語源はギリシア語からの造語で、「ビオ（命）」と「トポス（場所）」を組み合わせたものだそうだ。ドイツ連邦自然保護局では「有機的に結びついた生物群、すなわち生物社会（一定の組み合わせの種によって構成される生物群集）の生息空間」と位置付けているそうだ。「ペタ金」の育成池としてのわがビオトープ。ぴったり。ウーム、一体どなたがこんなアカデミックでしゃれた名前を付けたのか。

目を転じると「ベースキャンプ」。いかにも。「さあ出撃だ」といった感じで、気が勇む。「実りの森」「遊びの森」「ならやま彩（いろどり）の森」も、われわれを包み込むような、温かみが漂う。そして親睦行事の「のらの会」（通称ノミニケーション）、山形県など東北地方の伝統行事から名付けた「芋煮会」。とても親しみやすい。環境に配慮した農業を目指す、わが「エコファーム」も悪くない。どれも、ならやまへの強い愛着ににじむ。

ネーミングの面白さですぐ思いつくのは、焼酎の銘柄だ。酒屋でメモしてみた。「神の河（かんのこ）」「鉄幹」「晴耕雨讀（せいこううどく）」「大河の一滴」「一刻者（いっこもん）」…。銘柄だけで酔いそうだ。コロンビアのノーベル賞作家の同名小説からとったという「百年の孤独」、お経に出てくる数の単位を用いた「那由多の刻（なゆたのとき）」に出会ったときなど、もう参った、というほかない。

さて、エコファームグループではいま、ならやまの里地に散在する畑や田んぼに愛称をつけようと、話し合っている。とりあえず位置関係をわかりやすくするのが狙いなので、焼酎の銘柄やならやまのネーミングほどのエスプリにはとても及びそうにない。ただ、話し合うたび、改めて先人が知恵を絞った努力に気づかされている。

景観グループ

里山の今

パトロールグループ

◆ ならやまに来て思うこと

浅岡 伸也

“明るく楽しく無理をせず”という会のモットーに惹かれて「奈良・人と自然の会」に入会してもうすぐ2年になる。私の生まれは兵庫県尼崎市、それも南の埋め立て地にほど近い場所。最近でこそ京阪神の住みたい街の1つに挙げられるようになったが、私の子供の頃は高度経済成長期の真っ只中で、尼崎市は阪神工業地帯の中核都市として発展。市の南部には関西電力の火力発電所や住友金属工業などの大手企業の工場があり、あちこちの煙突からは白や黒色の煙がもくもくと立ち昇っていた。家のすぐ近くには大阪と神戸を結ぶ幹線道路の国道43号線が通っていて、車の排気ガスがひどく1988年の大気汚染公害訴訟は全国的なニュースになった。市内の河川は淀んだ水面にゴミが浮き、川底からはメタンガスの泡がポコポコと水面に浮き上がっていた。



そんな地域で育ったので家の周りは田んぼや緑は少なく自然というものを感じられる場所はほとんどなかった。今、奈良・人と自然の会に来て先人の方々の大変な努力のお陰で身近な場所で四季折々の自然に触れる事ができる。そしてそれを微力でも次の世代に引き継ぐ里山保全の活動や農作業に参加できることは私にとっては大いなる喜びである。間伐作業や草刈り、畑作りなど体力的にはきつい作業もあって、自然の中での活動は一人の人間の力の小ささに気づかされるし人も自然の一員である事を実感させられる。しかし何よりも自然に囲まれた中で活動していると気持ちがいい。まだまだ花や木の名前も自然界の仕組みもよくわかってないが、自然を愛する人達がここで生き生きと活動されている中で教えられる事がたくさんある。奈良・人と自然の会に巡り合えた事は幸せな事だと思う。そしてこのならやまという環境を次の時代にも引き継いでいきたいと思う。

◆ 腐りにくい木と腐りやすい木

宮崎 仁

パトロール班では、四六時中観察路の階段の枕木や杭の交換に非常に忙しくしています。特に湿気の多い所では、腐ってしまいボロボロになってしまっています。枕木に使用しているのは、倒木や伐倒した木を利用しており、木材は有機物であり分解菌を介して分解し土に帰っていく宿命をもっているのです。

ただ、木でも腐りやすい木と腐りにくい木があります。同じ一本の木でも部分によって、腐りやすい箇所と腐りにくい箇所があります。外周部の辺材（白太）は、中心に近い心材（赤身）に比べ腐りやすく、心材は腐朽菌や虫の嫌がる物質を溜め込んでいるため腐りにくいのです。腐りにくい木は、この心材に溜め込まれる物質が腐朽菌に対してどれほど抵抗力があるかで決まります。

一般的に匂いのあるヒノキ、杉、ヒバなどは、匂いのもとであるフェノール性の心材成分のおかげで腐りにくいという性質をもっています。また腐朽菌が活発な熱帯地方の木材は、腐朽菌に対抗するため心材に強力な耐腐朽菌物質をもっていることが多く、例えばチークやビンカドなどに含まれる独特の油分や、メルバウが含んでいるシリカ、非常に優れて耐朽性をもつイベに含まれるラバコールもその一種です。

木材腐朽菌は大きく2種類に分けられます。木材の主成分はセルロースとヘミセルロース、リグニンの3種類で、セルロースとヘミセルロースを分解して褐色に変化させるものを褐色腐朽菌、リグニンまで分解し白色に変色させるものを白色腐朽菌といいます。

同じ修理するなら腐りにくい木材を使用の方が効率的ですので、ヒノキ、ヒバ、ケヤキ、クリ、ヤマザクラ、杉、カラムツ、キリなどから選んでいけば良いと思われます。

また腐朽対策として、クレオート油による防腐処理などが開発されており、腐りにくい木材だけでなく併用が望ましいと思います。

初出式と 10 年継続会員記念植樹式

八木 順一

令和2年の新春を迎える。幸いにして穏やかな、そして暖かい気候に恵まれるが、サイトは新春初出式と10年継続会員記念植樹式等で大忙し。一日があっという間に終わった、という感が強い。

朝は、近辺の佐保川小学校から拝借した石臼や杵(きね)がサイトにどんと鎮座する。今年は例年に比べ、六臼と餅の数も多く、ある会員曰く「今年の臼は大きいと違うか」。真実のほどはわからないが、例年以上の餅の数が必要になっている、間違いない。それだけ会員の数が増えた証左か。

10時半過ぎには竈(かまど)の周りの準備も整い、餅つきスタート。代わりばんこに杵を持ち、いざ餅つきに挑戦。昔取った杵づかとはまではなかないかず、途中で息が上がる搗(つ)き手も多い。さて次回はどうかやら、・・・



そして、12時きっかりに会長の挨拶、お神酒の乾杯で宴が始まる。今年はきな粉餅やおろし大根餅のほか、終礼時には焼き餅も準備される。いずれも食べきるには十分の量だったようだ。また、併せてならやまで採れた七草を使った七草粥や黒豆等も準備される。ふだんなかなか味わうことのできない美味に舌鼓を打つ会員も多い。素晴らしい経験になっただろう。

宴の後は、全員で後片付け。実りの森で実施予定の10年継続会員記念植樹式に備える。1時45

分からは10年継続会員記念植樹式。後片付けが終わったメンバーが三々五々実りの森へ。本年度の対象会員は11名だったが、3名は都合で参加できなかったが、8名は他の会員からの祝福を受ける。

会長からの挨拶の後、継続会員の紹介、そしてメインの植樹が始まる。今年は富有柿が植樹木として選ばれたが、一人ひとりがスコップをもって丁寧に根っこに土を被せる。8年たてば実をつける、ということだが継続会員の中からも、このカキの実が実る頃まで元気に活動を続けたい、といった本音とも冗談ともとれる声も聞こえる。実際はそれほど経たずともおいしいカキが収穫できるとのこと。それまで元気にならやまに・・・。



この後は令和天皇即位記念植樹。10年継続会員記念植樹の隣に準備されたタイサンボクを植える。こちらのほうは会長や参与、そして顧問が中心となって根元に土を被せ、成長を見守ることとなった。



実りの森がこういった樹々で埋め尽くされるように、奈良・人と自然の会もずんずん大きくなってほしいものだ。

1月歴史文化クラブ研修会・レポ

**令和2年度新春初詣
(大神神社初詣と三輪山登拝)**

中井 弘・坂東 久平

1月14日(火) 歴史文化クラブ主催で新春恒例の大神神社初詣と三輪山登拝を行った。天気は快晴、参加者28名がJR三輪駅に集合した。

大神神社では、ご祭神の大物主大神が鎮まる三輪山を拝する大神神社の拝殿に昇殿し、ご祈祷を受ける。幸いにも本日1番目のご祈祷であった。厳かで引き締まった雰囲気の中で神職の祝詞奏上、巫女の清らかな鈴の音による祓い、続いて古川代



表による玉串拝礼。心身が清浄になり今年の安寧と会員の安

全祈願を祈った。この拝殿は徳川四代将軍家綱が1664年に再建したという重文である。

祈祷殿前で大神神社についての解説を聞く。古事記や日本書紀によれば、大物主大神が自ら三輪山に祀ることを望まれたという。

ここで三輪山登拝組20名と平等寺山麓組8名に分かれて行動する。



登山口の狭井神社は大物主大神の荒魂をまつる神社で「薬水」が

湧き出ている。登拝組はここで白嚢を借りて登り始める。三輪山は標高467m、三諸山ともいう。奈良盆地をめぐる青垣山の中でもひと際、形の整った円錐形の山である。山麓地帯にはヤマト政権の初期政権が存在したと考えられている。

登り1時間05分、下り50分と今年は健脚揃い

であった。

山麓組の8名は、平等寺へ向かった。本堂に上がり、十一面観音立像(聖林寺・国宝の複製)の前で、副住職丸子師からお話を伺った。

鎌倉末期から明治の廃仏毀釈に至るまでの間、平等寺は、大御輪寺、浄願寺と共に三輪明神の神宮寺であった。また、真言灌頂の道場である「三輪別所」として、修験者の鍛練の場でもあった。

廃仏毀釈で堂舎は破壊されるが、廃仏毀釈の直後、小西家より現境内地の寄進を受け、廃仏毀釈前の平等寺住職・覚信和尚と町内有志18名が塔頭の一部を境内に移し、本尊十一面観世音などを守り、曹洞宗に改宗し法灯を護持した。

1977年に、現住職丸子法が16年間の托鉢によって曹洞宗の寺院、「三輪山平等寺」として再興した。この間の苦労話を長男の副住職丸子師から伺い感銘をうけた。彼は災害ボランティアなどの活動にも積極的に参加し、社会貢献をされている。

聖林寺の国宝・十一面観音立像は、廃仏毀釈の時に大御輪寺から聖林寺に預けられたもので、聖林寺に証文が残っている。

しかし、元は平等寺にあったものが大御輪寺に移されたとされる。

現在本堂にあ



るのは、聖林寺の許しを得て作られた複製である。

参拝、見学の後、若宮(元の大御輪寺)に向かい、祭神大直禰子(オオタタネコ)と大神神社の祭神大物主大神との関係などを、古川さんから聞く。何度聞いても神様の名前や関係が覚えられない。

二手に分かれ一方は福神堂へ直行、残りの5名は、知恵の神様・久延毘古命を祀る久延彦神社を参拝、さらに大和三山を望む「大美和の杜展望台」に登り、ここからの、大鳥居や畝傍、耳成、香具などの美しい景色に見とれた。

福神堂で全員が合流、「三輪そうめん」を肴に銘酒「三諸杉」で賑やかな懇親会となった。

(担当世話役 古川・富井・中井)

私のふるさと 奈良

増田 典男

私のふるさは奈良市手貝町です。「転害門」は皆さまよくご存知かと思います。昭和 22 年生まれは団塊の世代です。この年の有名人といえば、ビートたけし、西田敏行、西郷輝彦、星野仙一、みな頑固で個性派です



転害門は遊び場でした

子供の頃を思い出すと、奈良はまだ田舎、市内は田んぼばかりで、牛がのんびり田を耕していました。賑やかといえば東向きか餅飯殿通りくらいで人口も少なく、のどかな街でした。なぜか米軍進駐軍を覚えています。高畑町や黒髪山に基地があり「give me chocolate」が初めて知った英語でした。代々呉服屋をしていた祖父の店には週末になると将校がやってきて、母が言うに「all」と言って店にある着物を全部買い取っていったそうです。東大寺や興福寺にシニア世代のアメリカ人観光客がいっぱい来ていました。1ドル360円の格安旅行だったのでしょう。ここでも「give me chocolate」は最高の英語で我先にと甘い物をいっぱいくれました。そんな進駐軍がいなくなり、静けさが戻った頃から大阪からの人口流入が始まりました。農地は宅地になり、戦後復興の波もあって街の風景が随分変わっていきました。

出生数268万人の世代は競争も激しかったです。どちらかといえばのんびりした奈良の小中学校仲間とは今も太い絆で結ばれています。50代前半までは大忙し、後半頃から集まる機会が増えて、定年後に備えていろんな仲間作りをしました。農園・ハイキング・ゴルフに加え、近鉄奈良駅近くにある漢国神社の宮司は幼稚園からの同級生で、小中学校の校章の桜を取り入れて「漢桜講」とい

う講名を頂いて奉仕活動が続けています。この歳になっても呼び合う名前は「〇〇ちゃん」です。

車で生駒のトンネルを抜けて奈良に入ると若草山が見えます。何度通っても「ああ奈良や、ええとこや」と目が潤みます。山焼きもお水取りもみんなで行きました。当時は人出も少なく若草山の山麓、二月堂の真下で火の粉を浴びて楽しみました。夜空は澄み切ってまさに満天の星でした。奈良盆地は夏暑く、冬は寒かった。真冬に猿沢池がカチカチに凍って走り回ったことも思い出です(警官と先生にメチャ叱られました)。奈良の仲間はなぜか、ふるさとを離れた者は少ないです。住みやすいというか、性格的におっとりというか、競争心が少ないのかも知れません。

夏の春日野プール、秋の春日野グラウンドに集まる数え切れない各町神輿祭り、若宮おん祭り、興福寺鬼追い式、大文字焼き、国鉄奈良駅の蒸気機関車、運動会、修学旅行、幼い頃の思い出は鮮明です。騒がしい大阪に住む私には奈良で幼なじみと過ごす時間が一番の癒しです。「奈良漬け」を肴に「地酒」で至福のひとときを共有できます。

私にはもう一つ思い出のふるさとがあります。遠く離れたカナダ・オンタリオ州トロントです。30歳のころ家族4人連れで留学しました。外国人家族寮には日本人が沢山いて貧しいながらも素晴らしい2年間を過ごしました。夏は短く、寒い季節は10月から5月初旬まで、特に真冬はマイナス10度、しかしどこでも豊富な電力で家の中は半袖で過ごせます。人口が少なく、資源が豊富、「人種のモザイク(米国はルツボ)」で平和な国でした。寮には世界中からの人達がいてにぎやかな国際交流ができました。日本人の知人が訪れると決まってナイアガラ滝にドライブ、格安で美味しい肉とワインが喜ばれました。当時の恩師や仲間とは今も交流がありますが、さすがにリッチな国で皆さん優雅な年金生活を送っておられます。里山活動は自然を愛するカナダ人には関心が深く、いろんな情報を送ってくれますが、今はもう英語もチンプンカンプンで画像を見る程度です。すっかり遠い国になってしまいましたが、懐かしい思い出の地です。



イベントで見つけた友情三題

吉川 利文

昨年の秋口から、エコファームグループが中心になるイベントがラッシュ状態で、その目まぐるしさに少々くたびれた。そんな中で、いくつかの感動が疲れを癒してくれた。ささやかながら私を感動させてくれた「友情三題」――。

第一話。佐保台小学校の児童らの稲刈りでのこと。その少年は水田のほとりで、シャツの下端をぎゅっと握ってうつむいたまま固まって座っていた。別の手には数本の稲。前を通りかかって気になり、「どうしたの」と声をかけた。無言。動かない。隣に女性教頭が座って再三「さあ、行こうよ」と促す。無言。動かない。「私が連れて行ってあげるから、みんなと稲刈りしに行こう」「手をつないであげようか」「稲の刈り方を横で教えてあげるから一緒に行こう」。手を変え品を変え、みんなとの作業に誘う。しかし、身じろぎもしない。教頭に「どうしたんですか」と尋ねる。「間違っスリッパをはいてきたのを引率の先生に注意されたのです。別に叱ったわけではないのですが…」。サジを投げかけていた。私も声かけをあきらめたころ、「〇〇、何してんねん。はよ行こうよ」と、横から元気な声が近づく。聴くと、仲の良い友人だとか。促されて、あれだけ固まっていた子はすくっと立ち上がったではないか。ほう、友人なら動くん。友人は固まっていた子の腕を取り、水田のみんなのところへ連れて行った。「そうか、友人か。友だちってありがたいな」。しみじみそう思った。

第二話。芋掘りイベントでスタッフを募った。スタッフの数が少ないとイベントはうまくいかない。内心、焦っていた。活動日のたびに応募を呼びかけた。こちらの不安を察してもらえたのか、割りに順調にスタッフへの応募者が増えていった。30人を超すころ、もうこの辺で募集を打ち切ろうと、ある日の朝礼で「たくさん応募いただいた。これくらいで十分です。ありがとうございました。みなさんの『友情』を感じます」と募集打ち切りを宣言した。ところが、朝礼が終わるや否や、な

んと5、6人もの会員が「私も」「私も」とスタッフに名乗り出てくれたではないか。そうか、「友情」という言葉が、みなさんの心に響いたか。「私だって、そのくらいの友情はあるよ」という“俠気”を呼び起こさせたに違いない。当会はそういう人たちの集まりなのだ。そう思うと、胸が熱くなった。

第三話。NPOの「もう一つの学び舎（や）」という学童たちによる焼き芋体験イベントも、イモ掘りをしたいというので、手伝いのスタッフを募った。イベント疲れからか、活動日から外れた日程のせいか、応募は鈍かった。それでも、当日、事前にノミネートされていなかった男性会員が三人も駆けつけてくれた。

それだけではない。当日来られないという女性会員のYさんは、焼きあがった熱々のイモを包む袋状の紙容器を自宅にあったコピー用紙で数十セット手作りして預けてくれた。これにはNPOの人たちも「こんなものまで用意してくださるとは…」とたまげていた。また、やはり女性会員のSさんは「ジュズダマをお土産にどうかしら」と材料を40人分そろえて託してくれた。配り出すと、もの珍しさに「もっとほしい」とねだる子が続出。また、スタッフとして参加してくれた女性会員のKさんは、ベースキャンプの柿の大木からとった渋柿を甘い干し柿にしてたくさん持参してくれた。子どもたちには大好評だった。大木の鈴なりを指さし、「あの柿だよ」と説明すると、食欲を刺激したか「えーっ」と歓声を挙げて「もうひとつ」と、次々にリクエストの声があがった。当日参加できなかった辻本事務局長は、2日前のアダプトプログラムで出たガラクタやごみが16袋もベースキャンプに積み上げられ、回収されなかったら児童らには危険だと、前夜暗い中、見回りに来てくれた。「ご安心を。回収されてあたりはすっきり」と当日朝、メールで報告をいただいた。

いずれも「協力」なんてありきたりの言葉では足りない。「ありったけの友情」と受け取った。

力ある者は力を、心ある者は心を。「これは友情だ」「これこそボランティア精神だ」。私は子どもたちが帰った後も繰り返しそうつぶやいていた。

ならやまトーク・投句（新年）

どんど火や見守る子らの勢ひたる 鈴木末一

（佐保川小学校では、恒例のどんど焼を地域の団体が協働で実施する。藁の風を掲げ、竹の爆る音に子供たちは興奮、歓声が沸き上がる）

くわはじめ

新しき軍手長靴鉋始

藤原 勲

（ならやまの仕事始め。七十歳台ここでは現役、無理せず頑張ろう）

記念植樹刻める銘に冬日燦

小島武雄

（十年継続会員表彰の植樹。名前を刻んだ銘板、有難う、お疲れ様と）

おおあした

見晴るかす三輪山優し大旦

古川祐司

（三輪山の西・西南部の一带を国中（くんなか）という。ここから仰ぐ三輪山はまことに美しい。大旦とは元日の意）

身にしみる振鈴の音や初詣

阿部和生

（恒例の大神神社初詣。拝殿で巫女の鈴祓い音に心が清められる）

初詣八十路の齢有難き

阿部和生

（思いがけず八十まで元気で生きた。願い事よりただ感謝の参拝です）

温暖化じわり令和の初日かな

古川祐司

（平成になってからスーパータン風、大水害、異常高温が相次いだ。地球温暖化に待った無しを告げて、令和の世の初日が登る）

投句歓迎（古川まで）

七草や湯気にあらわる母の顔

岡田安弘

（ならやまで七草粥を頂く。子どもころ以来の味。懐かしさが込められる）

三色の餅頬張って初笑い

坂東久平

（ならやま初出、赤米餅、緑色のおろし餅、黄な粉餅、頬張って初笑い）

七巡り子年めでたし年男

小山喜与男

（八十四才の年男、おめでとうございます。お元気で、益々のご健吟を）

年賀状差出人にペットおり

ハ木順一

（ペットブームもここまで来たか。受取った人も相当の愛犬家かも？）

あわたけ

淡竹の日ごとに白し寒暄

藤原 勲

（生駒市高山の茶筌の里、淡竹を円錐形に組んで寒暄する。この地区の風物詩である。一年かけて白くなった竹を切断して茶筌に仕上げていく）

ふゆけやき

冬櫓無残坊主と刈られけり

阿部和生

（堂々たる樹形になる櫓、毎年秋になると刈りこまれる街路樹の無念さ）

骨正月ぶつ切る鮭の頭かな

古川祐司

（二十日は骨正月。残った鮭やブリの頭をブツ切にして粕汁にして頂く）

陸橋に立ちつくす子ら春疾風

自由人

（正月八日、竜巻のような生暖かい風が吹く。立ちすくむ子らの情景）



▲油彩「庚申さんのある家」 永井 幸次



▲陶芸「多肉鉢」 西岡 正平



▲陶芸「猫」 小島 武雄



▲写真「樹氷(明神岳)」 中井 弘

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

仲間入りしました



前 弘之

工業のまち新居浜市で働き、退職後西条市の山間部に移り住みました。日々の忙しい仕事から解放されると、子供の頃遊び親しんだ故郷の自然を思い出し、その度に「その自然が失われた」悔しさがこみあげてきました。そして、自然を少しでも良くしたいとの思いで、里山に広がる放置竹林をきれいにし、伐った竹を有効に利用する活動に17年間集中して取り組みました。

その後、年をとるとともに、今後の生活のことを考え奈良に移りました。奈良では、興味のある事を広くやりたいと模索し、次の事を始めました。(1)もの作りをする：長岡京の竹細工教室、奈良市の「からくりおもちゃ」作り体験に参加、(2)文化的なものに触れる：大和郡山の「うたごえの会」に入会、(3)里山をきれいにする：当団体に入会。



佐藤 勝紀

「天声人語」でこの会のことを初めて知り入会しました。住まいは精華町南端でフィールドに近く、先日早速夫婦で訪れてみました。奥行きと変化のある美しい里山の風景に癒され、みなさまの活動の積み重ねの成果に驚きました。

幼少期は大阪市内で過ごし、その後はニュータウンでの生活が長かったため、自然と接する機会がほとんど無いまま今に至ります。入会をきっかけに、自然に親しむ機会を少しでも増やしたいと思います。平日は勤務がありますが、参加できる機会を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

寺野 金三



交野市から来ました69歳です。

杉山さんの紹介で活動地を見学することができ、多いに興味が持てました。特に農作業関係です。自分自身ほんの小さな畑を借りて作業していますが、できの良くない野菜を多く作っていたような気がします。学習・実践不足と思っています。

多くの野菜・そして肥料を見ますと、自然の堆肥を使用されていることに感心しています。又、採れた野菜を調理を工夫して皆さんに振る舞う保存食もいいですね。

時間を持て余す私にとって学ぶことが多くあり、ここは人と自然がとても合う場所ですね。

どうぞよろしくお願いいたします。

シニア自然大学校星組13期の卒業生でもあります。活動の場が広がる思いです。



小橋 行雄

朝日新聞の天声人語で「奈良・人と自然の会」を知り、里山に憧れていた私は妻と一緒に入会しました。入会してまず感心したのは、皆さんが真剣で一生懸命に仕事に従事していることです。

堺から少し遠いのですが、この会ならがんばっていけると思いました。

昼食の際、味噌汁が振る舞われるのですが、その味は格別おいしく私にとって至福の時です。

採れたての野菜を格安で即売していただけるので助かっています。まずは健康に気を付けて、これから色々なことに取り組んでいきたいです。



尾崎 信次

私は尾崎信次(おざき のぶつぐ)68歳です。同じマンションに住む会員の方に紹介され、昨年10月に入会しました。生まれ育ちは吉野町で、学校卒業後20年弱東京で会社勤めをしていました。平成に変わった頃、奈良市にJターンし、一人ですが株式会社にして仕事をしました。

東京にいた後半10年ほど暴飲暴食を続け、体重は激増、Jターン直後に痛風発作も起こしました。酒を控え、フィットネスクラブにも通うことで、徐々に体重も減り、尿酸を抑える薬は飲み続けていますが、それ以外健康診断では全て正常範囲に入るまでに良くなってきています。

昨年9月末に会社を解散し、暇になった所で、ちょうど良いタイミングで入会できました。

電子機器の回路設計が主な仕事でした。そのため、電気・コンピュータ関係ならある程度知識があります。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

2月	6(木) 13(木) 20(木) 27(木)
3月	5(木) 12(木) 19(木) 26(木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8:28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8:36発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆連絡先：八木 順一



2/6 協働活動日・アダプトプログラム・イベント準備（穴掘り・コナラ根切り）

2/22(土) シイタケ菌打ちイベント（予備日：23日）

2/27 備品点検日

里山

2/6

植樹予定地の穴掘り（50カ所）／植樹木の根切り
イベント準備（真砂土運搬）／マキ割り（毎週）
ユート：松山平の草刈り

13 植樹予定地の穴掘り（50カ所）／植樹木の根切り／イベント準備（遊具設置）
ユート：真砂土搬入

20 イベント準備（竹杭の準備）／里山林内の整理／ユート：植菌場所の設定30箇所

27 イベントの後片付け／里山林内の整理
ユート：植菌場所の設定30箇所

エコファーム

2/6 冬野菜など収穫／ニンニク・玉葱追肥
果樹：鹿対策用ネット設置・寒肥（毎週）

13 冬野菜など収穫／苗床ビニールハウス補修

20 苗床ビニールハウス補修／冬野菜畑整備 寒おこし

27 苗床ビニールハウス補修／じゃがいも畑畝作り

景観

2/6 整備：BC竹林整備（毎週）

養蜂：巣箱・周辺の整備（毎週）

ビオ池：西池泥除去

花：アガパンサスの霜よけ／桜周りの草取り

13 ビオ池：西池泥除去

花：山野草園の草取りと柵作り変え（13. 20. 27）

20 ビオ池：池の整備

27 ビオ池：池の整備

パトロール

2/6 観察路点検整備（毎週）

丸太階段、手摺ロープ、標識

BC駐輪場周辺整備（毎週）

13 丸太階段、手摺ロープ、標識ペンキ補修（13. 20. 27）／植樹

20 シイタケ菌打ちイベント準備

27 植樹

コースパトロール：2-3-4-1

行事案内 Part1



2月 月例研修会のご案内

明神山からの世界遺産ビューと達磨寺へ！！

富井 忠雄

明神山は標高 273.6m の低い山ですが、山頂では 360° の大パノラマがひらけ、5つの世界遺産を目にすることができます。歴史的には十国（旧国名）が見えます。また明石海峡大橋・あべのハルカス・大和三山・東大寺も見渡せます。皆さんのご自宅なども見つかるかも？

後は尼寺廃寺跡・達磨寺へと向かいます。

1. 日 時：令和2年2月18日（火）
2. 集合場所：JR 王寺駅 2F 改札口前 9時30分
3. 持物：弁当・飲物・ハイキング靴、双眼鏡
4. 会 費：500 円
5. 雨天時：有無：申し合わせ通り
6. 行程：JR 王寺駅バス→明神 4 丁目→明神山→
尼寺廃寺跡（昼食）→乳垂地蔵→芦田池→片岡
神社→放光寺→達磨寺→JR 王寺駅 約 8 km
7. 申 込：富井忠雄
8. 世話人：森・桜木・富井

達磨寺：聖徳太子の慈愛の深さがうかがえる飢人伝説がもとになり、達磨大師の墓とされる古墳の上に本堂が建てられています。境内には戦国武将、松永久秀のお墓や雪丸像があります。



明神山の悠久の鐘



達磨寺と雪丸

3月 歴文クラブ研修会のご案内

北山の辺の道を歩く（万葉歌碑探索）

杉本 登



奈良の三名椿として名高い白毫寺の五色椿

1. 日 時：3月10日（火）10：00 集合
（ならやま申し合せ通り降水確率 60%以上中止）
2. 集合場所：近鉄奈良駅・行基菩薩前
3. コース：百毫寺～円照寺 約 8 km
4. 申込み先：青木幸子
5. 担当世話人：杉本登・古川祐司

山の辺の道は桜井市から奈良市まで、奈良盆地の東端を南北に続く古代の道です。今回はこのルート探訪の最後として、奈良市から南に円照寺までを歩いてみたいと思います。

まず近鉄奈良駅からバスで白毫寺へ。この寺は万葉歌人として名高い志貴皇子の離宮があったところです。

志貴皇子は天智天皇の第7皇子です。壬申の乱で天武天皇が勝利し、奈良時代末の称徳天皇まで天武系の皇統が続きましたが、称徳女帝で皇統が途絶えてしまいます。その後を継いだのが志貴皇子の子の光仁天皇です。以後は天智系の皇統が続くので志貴皇子は現皇室の御先祖とも言えます。光仁天皇は父の志貴皇子の崩御後に春日（田原）天皇の諡号を贈っています。

志貴皇子の有名な万葉歌を二つあげておきます。

「采女の袖 吹き返す 明日香風 都を遠み
いたづらに吹く」 巻1－51

「石ばしる 垂水の上の さわらびの もえい
ずる春に なりにけるかも」 巻8－1418

行事案内 Part2



自然教室チームだより 3月行事案内

早春の大湊池公園・自然観察会

辻本 信一

ミステリーツアーよろしく早春の「お楽しみ」自然観察会と銘打った令和2年3月2日(月)の観察会は、近鉄奈良線学園前駅から徒歩20分ほどのところにある緑豊かな大湊池公園に決定しました。

当公園は、奈良市西部の住宅地に位置し、大湊池を中心に池地区、西地区、東地区の大きく3つのエリアからなり県民の憩いの場となっている自然豊かな緑と水の公園です。

今回はその中で西地区を中心に自然観察を行います。もちろん今回も案内をお願いするのは「大阪自然史博物館友の会」副会長の田代貢先生。

植物ではあまり身近でお目にかかることのないブナやウラジロガシなども観察でき、池では水鳥も見られます。

明けてびっくりのお話満載の自然観察会になること請け合いです。

皆さまもぜひご参加ください。

1. 日 時：3月2日(月)
午前10時～午後2時(予定)
2. 集 合：大湊池公園(西地区)噴水前
・近鉄学園前より真っすぐ北に徒歩20分
(ならコープスギ薬局の交差点を左折)
・奈良交通(バス)「大湊橋」下車
西登美ヶ丘真弓125他15の路線バス停車
3. 持ち物：弁当、お飲み物、(あれば)ルーペ
必要に応じ、各自防寒対策をお願いします。
4. 観察ルート：
公園内の見どころを気の向くままに巡ります
それゆえ、観察ルートは当日のお楽しみとさせていただきます。
5. 担 当：自然教室チーム 桜木/山本(美)/辻本
6. 雨天実施の有無：(会報誌記載)申し合わせ通り

「シイタケ菌打ちイベント」のご案内

千載 輝重

梅のつぼみも膨らみ、春がすぐ其処に感じられるこの時期、恒例となりました「シイタケ菌打ちイベント」を、地元佐保台小学校児童をはじめ、公開イベントとして広く子供たちの参加を募り、自然環境教育の一環として、以下の要領にて実施します。

1. 日 時：2月22日(土)10:00～15:00

雨天の場合(前日19時前のNHK TV天気予報で奈良県北部の午前中の降水率が50%以上の場合)は、2月23日(日)に延期

2. 場 所：ならやまベースキャンプおよび里山林

3. 内容：午前：シイタケ菌植え込み、コナラの植樹
昼食：ならやま名物の豚汁提供

午後：ならやま里山林内での「山遊び」

4. 参加者：小学生児童とご家族合計60名
5. 参加費：500円(児童・保護者各1人当たり)
6. 持物：軍手・お弁当・飲物・汁椀・箸・雨具他
7. 受付窓口：辻本

参加された子供たちとご家族の皆さまには、シイタケの菌打ち作業や植樹を通じて、自然の豊かさ、自然の大切さを学んでいただきます。



【シイタケ菌打ち】



【昨年はコナラを植樹】

冬の寒さに負けず頑張る子供たちを応援しましょう。会員の皆さまのご協力をお願いします。

3月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 19日(木) 新入会員歓迎会
- *自然教室 2日 観察会(左ページ参照)
- *歴文研修会 10日 万葉ロマン(p13参照)

＜表紙写真＞10年継続会員表彰記念植樹後の
笑顔、笑顔（1月9日）